

「季刊わたぼうし」 第22号

発行者:わたぼうし連絡会
発行日:1991年(平成3年)3月1日 '91 春号

第22号のテーマ 「障害者と交通機関 II」

ありがとう
ありがとうという言葉
とってもすてきな
言葉だと思いませんか
私はこの言葉が好きです

すべてのものに感謝の言葉です
私は口にしないけれど
心の中で言うのです

ありがとうと言うたび
聞くたび
暖かいぬくもりを感じます
ありがとうと言うたび
聞くたび
灯りを感じます

こんなすてきな
言葉が言える人こそ
心豊かな人間です

T.Y

この機関紙は障害のある人、ない人が自由にそれぞれの考えを出し合い、主義、主張を超えて、お互いを理解し合う中から共に生きる豊かな社会を作っていくことを目的として発行しています。

テーマ 《障害者と交通機関Ⅱ》

今回も前回に引き続き、障害者が利用する交通機関にどんな問題点があるかを考えてみます。

宣伝の不行き届き

地域住民・在宅障害者

乗り物の割引には、当人(重度障害者)の介護者に対する減額措置も含まれています。

だが、10年前のことですが、バス運賃の割引で拒否され、いやな思いをしたことがありました。

この始まりは、地元の障害者総会でのバス運賃は障害の程度、等級に関係なく半額という問題でした。

重度障害者に付き添う人の半額も、列車同様に認められています。手帳を開いて「一種」だと運転手に確認を求めてください。とのことでした。それで介護者の母を横に、乗車口で運転手に障害手帳を開いて見せたのです。しかし、反対に「いつからそんなことが決まった=聞いたことがないぞ」と叱られ、乗客の前で身に詰まる思いをしたのです。

せっかく教えていただいたことも、バス会社と市町村役場との「協力割引の宣伝」の一部が行き届かぬままに、ただ当人が半額になることだけしか伝えられていなかったからです。

昨年、改めて役場の福祉課に聞いてみましたが、制度は間違っていないとのことでした。

そこで、バス会社に依頼したいことは、この制度の再認識を第一に、面倒な問題が起きないためにも、確実な方法で運転手に伝達していただきたいのです。なお、バスターミナルの職員も知っておく必要があるのではないのでしょうか。

障害者の「一種」といえば、すぐに目に付く外部の悪い方(車いす、松葉杖)しか思われないようですが、介護者を必要とする人の中には、内部障害者もいるからこそJRの割引が新たにされたのではないですか。付き添われれば外出できる人もかなりいます。

県の方も力を入れて、バス専用の『介護証』を発行して下さることを希望します。

現に、特別措置の適用はあっても、連絡の一部がまちまちである今、長距離での介護者を横に、障害者手帳を開いたこともなく、また勇気もない私です。

交通旅客運賃割引制度について

今回、投稿がありました「交通機関の旅客運賃割引」について、代表的なものを掲載します。これは昨年度「もの知り博士」に掲載したものをまとめてみました。

1.JRの運賃

- ①第一種身体障害者が介護者とともに乗車する場合。普通乗車券、定期券、回数券、急行券(特急券を除く)について、身体障害者及び介護者のいずれも五割引。
- ②身体障害者が単独で乗車する場合(第1種、第2種の別は問わない) 片道が100kmを越える区間を乗車する普通乗車券に限り五割引。

③12才未満の第2種身体障害者が定期券を用いて介護者とともに乗車する場合。介護者の定期券のみ5割引。

2.バス運賃

JRに連絡していない会社等の鉄道やバス路線についても、各会社又は各地方公共団体等の事業主体により、JRと同様の、又は独自の割り引き措置を講じているところが多い。ちなみに石川県内のバス会社は5割引である。

3.空運賃

- ①割り引き対象者：第一種身体障害者とその介護者及び一定の障害(平衡機能・音声機能又はそしゃく機能の障害で3級、視覚・聴覚・下肢等の障害で4級)を有する者。
- ②割引率：いずれも普通大人片道運賃の25%
- ③適用区間：定期航空路線の国内線全区間

4.有料道路通行料金の割引

- ①割り引き対象者：肢体不自由者で身体障害者手帳の交付を受けている者。割引率は50%
- ②対象となる自動車：肢体不自由者が自ら運転する乗用自動車及び貨物自動車(ライトバン等)で、その障害者又はこれと生計を一にする者が所有する者。ただし、営業車は除く。

(参考文献・介護福祉士養成講座:障害者福祉論・中央法規出版)

「アメリカでの交通機関」の放送から 障害者支援施設・利用者

昨年12月8日(土)放送のNHKスペシャル「障害者の日・開かれた社会」より、アメリカの交通機関についてのコーナーがありましたので、番組を見た感想を述べてみます。

昨年7月26日、アメリカにおいて、障害に関する差別の明確で包括的な禁止を打ち出すための「障害をもつ米国民法(ADA)」という法律が成立しました。ここで「障害をもつ米国民法(ADA)」の交通機関に関する主な法律をかかげておきます。

①交通・運輸

バス・車両など事業者が運行する車両は、車いす使用者を含む障害者が容易に利用できなければならない。

②公共的施設

不特定の人が利用する施設を経営するものは、その設置・サービスにおいて障害者を差別してはならない。

アメリカの路線バスには、リフト付きバスが走っており、車いすが気軽に利用できるようになっている地域もあります。しかし、バスの乗客の反応はあまりよくありませんでした。

その理由として、車いすを乗せるときに時間がかかりすぎて、通勤時間に間に合わない。それで他の交通手段を利用して欲しい、という乗客の意見もありました。

バス会社の人も「今後、この法律が施行されても、バスを改造するのに費用がかかるので、改造を進めてゆくことは難しい」ということを言っています。

次ぎに歩道のことが放送されていましたが、これも全く日本と同じで、段差があり、車いすではとても利用できない状態でした。

しかし、今回の放送を見てアメリカの場合は福祉が進んでいると聞いていましたが、それはほんの一部のことであり、交通機関の問題は、日本と全く変わらない現実を見せつけられました。

この法律の施行によって、障害者は便利になるかも知れないが、これを運営して行くための会社側の維持費も大きく、簡単に車両の改造などはできないことを痛感しました。

日本の場合には改造を要求する前に障害者自身が、ほとんど公的な交通機関を積極的に利用しないことに一番根本的な問題があると思います。

車いす専用の「福祉タクシー」を 地域住民・聴覚障害者

私は数年前に障害者が10数人ぐらい集まった職場にいたことがあります。そのうち車いすの障害者が二人いました。一人は20代の男性で、自家用車を運転していて、器用に車に乗り込んで、車いすをたたんで後ろの座席に載せて通勤していました。

もう一人は養護学校を出たばかりの10代の若い男性で、母親が運転する自家用車で通勤していました。足や腕に障害があるため、自分で車いすを移動させるのが大変で、自家用車に乗るときは、母親におんぶしてもらっていました。

それを見て、車いすの障害者が一人で外出したいと思って、タクシーを呼んでもなかなか大変で、介護者がいないと敬遠されるのではないかと思いました。

普通のタクシーの構造では、車いすの障害者が乗り込むのに無理があるので、ワゴン車に車いすの昇降機や固定装置などをつけた専用の「福祉タクシー」が必用でしょう。

そして車いすの障害者がいつでも気軽に外出できるように、専用の「福祉タクシー」の開発と制度化を求める運動を進めることが大事なことではないでしょうか。

昨年12月に「障害者の日」にちなんだテレビの特集番組があり、東京の新宿駅に都内の障害者とボランティアの多数が集まって、電車や地下鉄・バスなどの交通機関に乗り込んで、さまざまな困難と闘いながら訴えている障害者たちの姿に熱い感動を覚えました。

この「季刊わたぼうし」における自由な意見の交換が活発となって、障害者にとって暮らしやすい社会ができることを期待しております。

「キャーッ、えみちゃんのズックが線路に落ちた=」とK先生の金切り声で、小松から金沢駅に向かう普通列車が3分遅れで出発することになりました。生徒ともに社会見学に行った帰りのできごとです。

普段は気がつかないことですが、列車の乗降口とホームとの間には、人間の足がすっぽりはまるぐらいのすき間がありました。えみちゃんは片足に障害がありますので、片足のズックが引っ掛かって落ちてしまったのです(えみちゃんではなくてホーッ)。これは愛育養護学校のことでした。

中学部の修学旅行での新幹線。乗降時間に余裕はありません。やはりあのすき間はこわい。私の担当の生徒は全盲です。ようし、だっこだ。中2にしては小柄な彼女を、えいと抱えて降りたとたんに発車。ホーッ。これは盲学校のことでした。障害児学校に勤務していますと、いろいろなことに出会います。

さて、わが家に帰れば、年老いたお姑さんは、どこへ行くにも最近タクシーを使用しています。公共の交通機関であるバスは、乗降口が高い位置なので、急いだわけにはいかず、足の不自由なお年寄りには恐ろしいとのことでした。

昨今言われることですが、近い未来は高齢化社会であるとのこと。大多数の人たちが障害者の方と同じような不自由さを感じるはず、という現実を頭において、まずお年寄りに優しい交通機関やルール作りを目指せば、お互いに暮らしやすくなるのではないのでしょうか。

それにしても、最近の交通事故は、お年寄りや障害者の方々に集中していると思えてなりません。新しく石川県知事になられた誰かさん=交通安全の方もよろしくね。

「障害者と交通機関」を読んで

地域住民・会社員

「障害者と交通機関」を読ませていただき、自己の現代社会におけるあり方みたいなものを改めて認識させてもらいました。人間というものは皆、自分の都合のよいことにはわりと力を惜しまず、自分の考えに合わないことには目をつむるものなのです。我々にとってそれほど不都合のない現代社会においても、障害者の皆さんが日常生活でいかに困ったことに交わっているかを、我々は忘れてしまっています。

障害者の方々は、身体的に健全な人びとはすでに大きなハンディがあるわけですが、皆一人の人間として社会の中でさまざまな厳しい環境の中で生きて行かねばならないわけですから、本当に大変だと今さらながら思います。

さて、今回のテーマである「交通機関」とのかかわりですが、たしかに日本は他の国々と比較しても障害者に対する設備等はまだまだ満足のものではありません。やはりこれは何ととっても日本国民全体の福祉に対する意識向上が未だに薄いからだと思います。

実際、私自身このかた数十年来障害者の方々が電車やバス等の交通機関を利用している

姿はほとんどと言っていいほど見かけたことはありません。

ですから、障害者の方々がどうやって交通機関を利用し、どのように目的地へ行っているのか全くわかりません。おそらく一般の方々の足手まといになるのが申しわけなくて自宅でじっと我慢を強いられているのではないのでしょうか。こういったことを一日も早く改善して行かねばなりません。それで私はこう思うのです。

改善のまず第一歩として、障害者の皆さんは、もっと堂々として街に出て、自分の思ったことを行動に起こすべきです。多少の不都合さをあえて受け、それでもなおかつ積極的にいろいろな行動をするのです。他の人に多少の迷惑をかけてもいいと思います。そうした行動の積み重ねが、皆さんの障害者に対する意識を目覚めさせ、しいては福祉の向上につながっていくのです。そうすることによって交通機関の改善もだんだんと行われるのです。

最後に、皆さんに一番言いたいことなのですが、交通機関内に限らず、日本人の最も嫌いなところである、知らない顔をする事(無視すること)や、困っている人を助ける時、周囲の人びとの顔を見てから「どうしようか?」などと考えてから行動をとるような人間にだけは、けっしてなあって欲しくない、ということです。

障害を持つ皆さん、これからも何事にもおっくうにならずに頑張ってください。

ハイウェイは車いす天国＝

地域住民・編集委員

3年前に幸運にも車の運転免許を取得できました。それを機会に歩行困難と、おまけに右手が利かぬ妻のために、私が後から押す車いすを買いました。普通の車いすは片手では自分で進むことはできません。

このため私たちの行動範囲が大きく広がったことは言うまでもない。こうなればドライブ旅行をしない手はありません。ドライブといえば日本全国を走る高速有料道路＝有料道路とくれば信号なし、急カーブなし、アクセル踏みばなしのドライバー天国＝それに車いすの障害者(ドライバー)にとっては、まことに好都合にできています。

それは各パーキングエリア、サービスエリアには車の進行方向の左側に、必ず車いす専用の駐車場があり、そこに車いす専用のトイレ・電話ボックスが設置してあります。

さらに、そこからスロープによってレストラン、売店、食堂につながっています。レストランに行けば店員がドアを開けてくれたり、テーブルに案内してくれます。普通道路ではこうはいきません。車いすでのトイレ、食事、買い物となりますと、まず段差、階段と戦わなくてはなりません。

こうして、去年は大小合わせて10カ所ほどの旅行をしました。そのうち5月の「砺波チューリップフェア」は、晴天の下で色とりどりのチューリップに囲まれ車いすで会場を見て回ることができました。

続いて6月には北陸自動車道、名神高速道路、近畿自動車道と乗り継いで「大阪花の万博」へ行きました。会場に入る前の猛暑の中、駐車場さがしには大変な苦勞をしました。結局は車いすを持っていたため、外国人使用の駐車場に置かせてもらったまではよかった

のですが、おかげで妻が軽い日射病にかかり診療所にお世話になりました。

車いすのため、まだいろいろなハプニング、人間愛に満ちた旅行がありましたが、スペースがなくて公表できないのが残念です。

今年も車いすとともに各地を廻るプランが詰まっています。行くぞ=宝塚=

・普通車ヨそこのけ車いす駐車場 比呂雪

わが家のペット大集合

~シロちゃんの登場~

地域住民

皆さん、コンニチハ、僕の名前はシロです、

僕は白くてとっても大きいので、近所のおばちゃんからは『白クマ』と言われます。

僕の取り柄は元気なこと。その辺の田んぼに入って泥んこ遊びをするのが大好きです。でも、家の人からは「また、泥だらけにしてえ……名前を変えれんぞ」と怒られます。

だけど僕は泥んこ遊びが面白いので、また、田んぼに入るんだ。だから、この家のお父さんに『ブチ』と言われるようになりました。『ブチ』って、ダラブチの『ブチ』なんて、えへへ……。本当の名前がどれかわからなくなりそう……。

僕は遠くへ行ったことがないので、あんまり友だちがいません。だから誰か(とでこかのワンチャン・ニャンチャン)お友だちになって下さ~い=よろしく。

ペット大募集中=

このコーナーに登場してくれるあなたの家のペットを紹介してください。彼、彼女を募集中のペットがいまいたら大歓迎。恋人が見つかるかも知れませんよ。できましたら写真を添えてお送り下さいね。

福祉もの知り博士

その1 「地域利用施設」について

読者の皆さん、コンニチハ、今回は施設シリーズの4回目として、地域利用施設について講義を行う。

この施設は法律では身体障害者福祉センター、補装具製作施設、点字図書館、点字出版施設の4種類が規定されており、それぞれ無料又は低額な料金で関係事業を行うこととされている。

身体障害者福祉センターは、身体障害者の各種相談に応じ、機能訓練、教養の向上、社会との交流促進、レクリエーション等のための便宜を総合的に供与する施設であるが、これには、都道府県・指定都市単位に設けるA型センター、人口10万人規模の地域単位に設けるB型センター、人口5万人規模の地域単位に設けるデイ・サービス事業を重点的に行う在宅サービス施設、広域的休養宿泊施設として設ける障害者更生施設がある。

これらのほかに、法律外の施設として盲人ホームが設けられており、あんま師、はり師、きゅう師の免許を持つ視覚障害者のための技術指導と自立更生を援助する場として地域的に利用されている。

皆さん、1年間4回にわたった施設シリーズはこれで終わるが、今回は「施設の利用料」について講義を行う予定である。

これからは卒業、転職などで忙しいかも知れないが、もうすぐ春なのだから、外へ出て思いっきり運動をしよう。

(参考文献：介護福祉士養成講座「障害者福祉論」・中央法規出版)

その2 脊髄損傷について I

この「脊髄損傷」については、数回にわたって解説していただきます。

大脳が頭骸骨に包まれているのと同じように、脊髄も脊髄骨によって包まれている。中枢神経は大脳と脊髄を意味しているように、大脳と脊髄は密接な関係にありその構造・働きもよく似ている。

似ているというよりもとも進化の初期では全く同じであり、中枢神経の前端が膨らんで大脳に、残った部分が脊髄になっただけでありこの二者は全く同じ仲間である。

大脳には高次の神経機能が集まり、脊髄にはより下位の神経機能と大脳への通信線維が残った。

脊髄損傷は、この構造により大脳との通信線維の切断と、大脳の命令により押しえ付けられコントロールされていた下位の神経機能の亢進症状の二つの説明が必要となる。

切断によって大脳から命令が来なくなり、意志で運動を行うことができなくなる。また、感覚神経も切断されると、皮膚に冷たいものが触れていても感じなくなる。同様に大脳から押しえ付けられていた下位の神経が自分勝手に動き出し、それが不随運動として現れる。自動車にたとえると、ブレーキのこわれた車のようなものである。

(解説:石川県七尾市・「青山彩光苑」理学療法士)

各地の行事に参加して

石川県身体障害者団体連合会主催 若い身体障害者のクリスマスの集い

12月16日(日)に金沢駅前の「ホリディ・イン金沢」において、クリスマスパーティー及び集団お見合いが行われました。参加人数は、ボランティアを含めると150名程で、自由に身動きができないぐらい会場は満員でした。

第一部は、「石川国体」「ほほえみの石川大会」のマスコット、元気君にふんしたサンタクロースがキャンドルサービス行った後、ポッキーによる輪ゴム送り、カラオケ、手を使ったゲームなどが行われました。

参加者はゲームよりも、懐かしい友人との語り合い、テーブルに並べられたおいしい食事やアルコールに目や手がいていたようでした。

第二部は、例年はバレンタインディー近くに行われている集団お見合いですが、ことしはクリスマスパーティーを兼ねて行われました。ゲームを楽しみながら自分の気に入った相手を見付けるのですが、そこはお互いお気に入りの方とカップルが生まれた?と思います。皆さん、とにかく写真で想像して下さい。

第36回石川県身体障害者福祉大会

12月9日(日)に石川県社会福祉会館において、第36回石川県身体障害者福祉大会が行われました。

この大会において、議案審議、大会宣言、映画「君がうて希望の鐘を」(第25回全国身体障害者スポーツ大会はまなす大会の記録)「障害者とスポーツ」という講演が行われました。今回は講演要項を掲載します。

・講演 『障害者とスポーツ』～ほほえみの石川大会の成功を願って～

立命館大学産業学部教授 芝田徳造

(1)来年の大会は50年に一度の大会

- ①どの府県も「50年に一度」を合い言葉に奮闘
- ②障害者相互の理解と団結に大きく役立つ
- ③一般県民の障害者理解を大きく進める

(2)日本の障害者スポーツは遅れている

①実施者もまだごくわずか

欧米では1割が日常的に実施。京都でもまだ0.1%の実施率。実施内容もまだ貧弱。京都で調査した結果は、大部分が「散歩かラジオ体操程度」を「道路か家・家の庭」で

「一人か家族と」実施している。

②スポーツ組織の位置付けも弱い

欧米では各国体育連盟にキチッと位置付けされている。日本は別組織である。

③施設、指導者も少ない

ヨーロッパではどこも「問題はない」という。

(3)障害者になぜスポーツが必要か？

①人間も「動物」の一種である

「動かなければ」早死にをする。「ルーの法則」療護施設の例。

②スポーツはリハビリにも最適

第一次大戦での陸軍野戦病院やLグッドマン博士の例。

③スポーツは障害者に「生きる勇気と自身」を与える

ある「両上肢片大腿切断者」の例。

④スポーツは「仲間づくり」にも最適

スポーツの持つ集団的性格からの効果がある。

⑤スポーツは障害者にとっても権利

国連の「障害者の権利宣言」「体育スポーツ国際憲章」。

(4)京都が一昨年の大会で目指した点

①できるだけ多くの障害者の参加

公開競技の実施、ふれあい競技(マスゲーム)の実施。

②重度障害者・身体障害者以外の障害者の参加

公開競技(卓球・バレー)、ふれあい演技。

③大会の「主人公は障害者」のアピール

開・閉会式での選手団への椅子の提供

④障害者理解を推進し、「共に生きる京都」(ノーマリゼーション)の実現に役立てる

(5)「ノーマリゼーション」とは？

昭和30年代後半から北欧に始まったコロニーの廃止運動である。

一つの社会には、一定の子供・老人・病人・妊婦・障害者など(ハンディキャプト=社会的弱者)が存在するのが当たり前(ノーマル)社会であり、これらの社会的弱者と健常者が共存する社会こそ、健全で強靱な社会である。(国連・国際障害者年行動計画)。

石川大会が全国の障害を持つ人びとやその家族に『生きる自身と勇気』を与え、石川県民には障害者への『正しい認識』と『共に生きる』ノーマリゼーションの理解を深める大会として大成功となることを心から祈念いたします。

(転載許可：石川県身体障害者団体連合会)

みんなの広場

自分ことはわからない

地域住民・高校教諭

自分のことは、自分でよくわからない。後ろ姿を見ることができないだけでなく、自分の心の内部に変化してきていることも、周囲の他人から指摘されない限りわからない場合が多い。8年前に金沢の養護学校から今の高校に転勤してきて、はじめは、高校とはこんなにも子どもと教師の間に距離のあるところかと内心驚(おどろ)いたり、呆(あき)れたりしていたが、今はその頃の驚きのまま新鮮な眼で周囲のできごとを見ているかどうか。

そんな変化は当たり前と言われるかも知れぬが、教育現場の有様は大雑把に言って8年前より今の方が窮屈そうであるから、日々の慣れが一定の退行を示しているのは明らかであろう。「わたぼうし新聞」第20号に「自販機」がいかに「障害者」にとって不便不親切な作りになっているかについて具体的に取り上げられていたが、それを読んで私は不意に背中をたたかれたような気持ちになった。はっとしたと同時に、いかに自分が、いわば“健全者”ボケしているかと思い知らされた。

教室で時折「障害児(者)」のことを自分の経験から話したりすることはあるが、自分の皮膚の厚さと鈍感さを思うと、何か見当はずれのことをこの数年以上言っていたのかも知れぬと冷や汗が出る。生徒たちに自分を写す鏡を持つように、などと訳知り顔で言っている私自身こそ、自分の鏡の歪みとくもりを拭いとらなければならない。どうしたら拭いとれるか。串田孫一という哲学者は、こんなことを言っている「誰もが自分のことを人間だと考えている。だが、人間というものを考える際には自分を除外させている」。

だれもが「障害」を持っている。だが「障害」を考える際に、そのことと自分を除外させている。とそんなふうにも言えるように思わされる。

高志療護ホームの紹介

障害者支援施設・利用者

僕が入所している高志療護ホームの入所者は、男子46名女子40名の合計86名です。週間の日課は、月、水、木の午前中が作業訓練と運動訓練、火、金が入浴です。水の午後はクラブ活動、木の午後は教養、ビデオやカラオケなどの娯楽になっています。

作業訓練は貼り絵、木工、七宝焼き、手芸、ゲームに分れており、クラブも美術、音楽、書道、文芸に分れており、自分の希望で入れます。

年間行事としては、和倉温泉六翠苑への一泊旅行、社会見学、感謝祭(僕たちが作業訓練で作った作品展示や即売)、家族会による模擬店やバザー、出張売店などがあります。

職員は寮母40名、介護士7名、看護婦3名など合計64名がおられます。

これが高志療護ホームの紹介ですが、富山県内には療護施設はここしかなく、入所したい人がたくさん順番を待っていたり、石川県や福井県の施設に入所している状況です。

福祉が大変遅れていて「最低でももう2カ所は、療護施設ができて欲しい」と僕は思っています。福祉がもっともっと進むように願っています。

「ほほえみの石川大会」競技種目・アーチェリーについて

地域住民・(石川国体アーチェリーヘッドコーチ)

こんにちは、まず自己紹介からします。名前はS.N、年齢は41才です。体重は74kg、身長は174cm、やや小太り、お腹が少し出ている、頭もここ2~3年で薄くなって来た中年です。家族は父親とカミさん、子どもは男2人、女2人の7人家族です。金沢市北部の三つ屋町に住んでいます。

私今、今年、行われる「第27回全国身体障害者スポーツ大会」(ほほえみ石川大会)の開催を控え、県と「県身体障害者団体連合会」が行っている、アーチェリーの講師です。

担当は金沢地区と「青山彩光苑」のある七尾地区です。小松地区では私の先輩のN.Iさんが講師を務められ、毎週水曜日19時~20時、「小松市サン・アビリテーズ」で指導されています。

アーチェリーを始めて23年になります。全日本選手権や国体など、たくさんの競技会に出場していますが、アーチェリーは健常者も障害者の方でも、何らハンディキャップをつけずに競技を行っています。友人の中にも何人かの障害のある人がいますが、皆元気に競技に取り組んでいます。

Sさんも右足が不自由ですが、本人は「不自由ではなの無いのだ=」と言っています。非常に明るい方で、国体にも参加しています。もちろん選手です。アーチェリーの次ぎに好きなことは、魚釣りのようで、海に川に獲物を求めて行かれます。特に溪流釣りは私の先生です。

話をアーチェリーにもどしますが、その歴史は、紀元前3万年(旧石器時代)頃から狩猟のために、弓矢や槍を使用したのが始まりとされています。やがて生活の糧をえる道具から人間同士の争いの道具、つまり武器として使用されるようになりました。そして鉄砲が発明されるまで人間の生活とは切りは離せないものだったのです。

今のようにスポーツとして私たちの生活に入ってきたのは、16世紀にイギリスの王ヘンリー8世が、アーチェリーのコンテストを開催した頃からだと言われています。日本では、昔から和弓が盛んでしたが、アーチェリー(洋弓)が本格的に行われるようになったのは戦後からですので、その歴史はまだまだ浅いものと言えます。

現在、世界では欧米を中心に盛んに行われており、国際アーチェリー連盟(FITA)主催による世界選手権大会が2年毎に、1972年のミュンヘンオリンピックからは52年ぶりに再度正式種目になりました。

一方国内においては、昭和55年の国体から正式種目として認められました。こういった大きな大会の他にも各地で個々に大会が催されており、その輪は大きく広がっています。その上、身障者の人たちの大会での活躍も聞かれています。老若男女を問わず誰にでも手軽に楽しめるアーチェリーは、私たち生活に、身近なものとなってきています。皆様もぜひ一度、アーチェリーを試してみませんか。

本の紹介

中林 基画文集

中林 基著 桐原書店 定価 1,800円(税込み)

中林基(なかばやしおさむ)さんは、1980年、原因不明の難病、筋萎縮性側索硬化症(ALS)を発病。この病気は筋肉が衰えて動かなくなる恐ろしい病気で、現代医学では、まだ治療法が発見されていない。

自宅での闘病生活のなかで、野菜や魚、花など、生活の中にテーマを求め、黒いフェルトペン一本によるすばらしい線描画を描き続ける。(あとがきより)

野菜、魚など日常生活に密着したものを材料にしたものを材料にした線描画とその画にまつわる中林さんの思いで構成されている。

編集局より

今回よりパソコン通信にもこの「季刊わたぼうし」を掲載することになりました。それにより購読者及び原稿の投稿者が増え、幅が広がることを期待しております。

それに伴い購読費が問題となりますが、現在の年間購読費2,000円は会費として、印刷費及び郵送料(在宅障害者や各種団体)にあてていますが、購読会員が増えれば、一人当たりの購読費が安くなると思われれます。

そこで、これを機会に広く購読会員を募集いたしますので、主旨に賛同していただく方は事務局又は購読費振込先へご送金いただきますようお願い申し上げます。特にパソコンネットで購読している方々の会員を募ります。

「季刊わたぼうし」の主旨及び内容については、別添えの「季刊わたぼうし原稿募集について」をご覧ください。

編集後記

1月17日に始まった湾岸戦争、戦争は何の特になるのでしょうか。イラクが流した大量の原油によって侵された海の動物たちの命を奪った責任は重いと思います。

もとの海にもどるまでに、200年はかかると言われている。戦争を終結させる方向に行っていないことに疑問を覚えます。戦争は絶対にいけない。早く平和的に解決されることを祈っています。(Z.O)

ほほえみの石川大会

第27回全国身体障害者スポーツ大会

ほほえみに 広がる友情 わく力

大会日程:平成3年10月26日(土)~27日(日)

開催地:金沢市・松任市